



当プレスニュースレターでは、東京文化発信プロジェクトの多様な事業を、さまざまな切り口からご紹介しています。

平成 21 年 12 月 21 日  
東京文化発信プロジェクト室  
(財団法人東京都歴史文化財団)

## 今月のテーマ ＊現代をうつす



『恵比寿映像祭』ディレクターに聞く

### 美術館で、「映像」のいまを問う意味

東京都写真美術館を主会場に、多様な映像表現を通してオルタナティブな価値観を探っていく映像の祭典「恵比寿映像祭」。本年の第1回に続き、2010年2月には第2回が開催されます。ディレクターを務める、同美術館学芸員の岡村恵子さんにお話を伺いました。

#### 多様な表現を通して探る、新たな価値観

——まず最初に「恵比寿映像祭」を立ち上げた意図について伺います。

**岡村** 東京都写真美術館は1995年に、日本で初めての写真と映像の専門美術館として開館しました。その後10数年の間に、映像による表現は非常に多彩なものになり、また、映像作品を取り上げる美術館も増えてきました。そこで、これから“映像”にどう向き合っていくか、この機会に見直していこうというのがスタートのきっかけです。公立美術館というホームベースを持つことで、その成果を長期のスパンで還元・活用でき、外部ともリンクしながら有機的に継続していける映像祭を目指しています。

——“映像”というと非常に範囲が広いですが。

**岡村** アートとしてくれるもの以外にも、ドキュメンタリー、アニメ、商業映画、実験映画、テレビ番組など様々なジャンルがあります。あえてジャンルを限定せず、風通しよく、多様な人々が集う形を考えています。第1回のテーマは「オルタナティブ・ヴィジョンズ」。“映像”って何?ということを問う場にしました。商業映画の映画祭はあちこちにあるので、既存の枠組みでは上映されにくい芸術性の高い作品や歴史的な作品、外部の団体やフェスティバルとリンクしたプログラムなど、幅広い内容を揃えました。“映像”という言葉の曖昧さを逆手に取り、多彩な作品を通してアートと、オルタナティブな視点を伝えていく。この基本は今後も変わりません。

#### 『第2回 恵比寿映像祭』

2010年2月19日(金)から28日(日)まで、  
恵比寿の東京都写真美術館で開催。

入場無料 ※定員制の上映プログラム、イベント等については有料。  
詳細は <http://www.yebizo.com>

——第2回の総合テーマは「歌をさがして」。この言葉に込めた意味は。

**岡村** 映像とは何か?をめぐるとの問いの中で、「うた」という言葉に行き着きました。映像も歌も、実体はなく、人が介在して初めて成り立つものです。日本語の「うた」は歌、唄、詩、詞、謡、詠……と文字も意味も多様。記憶や感情、物語、歴史、共

同体意識などを形成する媒体ともいえます。作り手それぞれの映像表現の違いも、単に社会や文化の違いではなく、その人が持っている「うた」の違いと考えれば、いろいろな面が見えてくるのでは、と思います。

——10日間の映像祭は、どのような内容ですか?

**岡村** 写真美術館全館を使い、展示、上映、ライブイベント、トーク・セッションなどを複合的に行います。入場は無料です。また第1回に引き続き、渋谷駅前の街頭ビジョン7面を使った作品上映を行う他、今回は、恵比寿ガーデンプレイスの広場に体験型の光のインスタレーションを設置。地域に根ざした美術館として、この映像祭を、お子さんや仕事帰りの方にも気軽に楽しんでいただくという試みです。



おかむら けいこ  
**岡村 恵子**  
恵比寿映像祭ディレクター、  
東京都写真美術館学芸員



“東京”の場の力で世界へ発信する

——「恵比寿映像祭」は、会場での10日間にとどまらないということですが。

**岡村** 美術館の通年の活動へのフィードバックや国内外の様々な活動とのリンクといった形で継続し、また発信媒体としてウェブサイトも活用していきます。映像による表現が急増している今、それを評価する部分は未整備のまま。その量とスピード感についていけない状況です。むしろ、歴史観をきちんと持ち、自分たちの立ち位置を明確にしていくことが必要でしょう。そこにこそ、美術館が取り組む意義があります。

——東京都の事業として行う意義は？

**岡村** 美術館単独ではここまでの規模のものは開催不可能ですし、入場無料にして広く門戸を開くこともできま

せん。また東京という場自体に、世界に発信する力があります。都の美術館で開催することで、5年後10年後100年後、あるいは5年前10年前100年前の東京とも繋がっていき、そんな活動を目指し、国内外への浸透を図っていきたいと思います。



藤本隆行 (dumb type)  
シンガポール・ビエンナーレ2008に  
おけるLEDインスタレーション  
(中谷美二子とのコラボレーション)  
©Fujimoto Takayuki[参考図版]

東京文化発信プロジェクト室 室長に聞く

平成21年の活動を振り返って

東京都の文化政策の一つとして、東京ならではの芸術文化を広く紹介する目的で取り組んできた「東京文化発信プロジェクト」ですが、2年目を迎えた今年は、地域の文化拠点の形成を目指す『東京アートポイント計画』や、誰もが気軽に伝統芸能を楽しめる『東京発・伝統WA感動』などの新規事業も行い、よりきめ細やかに“東京らしい文化”を発信できてきているのではないかと思います。また、春と秋の『フェスティバル/トーキョー』の上演作品を広く評価いただくなど、プロジェクト事業の認知度が上がってきていることも感じています。

私たちは文化を通じた子供たちの育成も目指し、子供たちが文化を体験し、成果を発表するプログラムにも力を入れています。能楽や日本舞踊等が学べる『キッズ伝統芸能体験』では、予想以上に保護者の評価が高く、「もっと実施してほしい」という声をいただきました。実際、参加している子供たちは、表情や態度が目に見えて変化します。同様に『パフォーマンスキッズ・トーキョー』は、一部の小学校では授

業の一環として行われていますが、先生方から「このワークショップで子供たちが変わった。教育としても素晴らしい」という熱いメッセージが届きました。そういった現場の声から行政ができる役割を実感した1年でもあります。

今後も“東京らしさ”や、行政が取り組む意義を念頭に、東京文化の底力を上げていきたいと思っています。平成22年は音楽の新規事業を行うほか、海外展開も予定。東京は経済都市の印象が強かったと思いますが、今後は文化都市としても国内外に強くアピールしていきたいですね。



すぎたに まさのり  
**杉谷 正則**  
東京文化発信プロジェクト室 室長

データで読み解く  
“東京文化”



—東京在住者の趣味・娯楽編—

東京に住む人々の  
趣味・娯楽種類別行動

映画鑑賞	532万9千人
写真撮影	396万5千人
美術鑑賞	321万7千人
演芸・演劇・舞踊鑑賞	246万7千人
楽器の演奏	129万9千人
邦楽(民謡や日本古来の音楽を含む)	27万2千人

東京に暮らす人々は、余暇をどのように過ごしているのだろう。総務省が5年に一度行っている社会生活基本調査に「男女、趣味・娯楽の種類別行動者数」というデータがある。これは、都内約5千サンプルに対する調査票を基に人口比で

算出した推定値によるものだが、このデータを見ると、1千16万2千人の都民がいかに多様な文化活動を行っているのかが伺える。

文化活動は、「鑑賞すること」と、「自分で行動・体験すること」の二つに分かれるようだ。

最も多かったのは「映画鑑賞」で、全体の約半数近くを占める。「美術鑑賞」は300万人超、「演芸・演劇・舞踊鑑賞」も約250万人などとなり、多様な文化に触れられる東京で「鑑賞型」が多いのは頷ける。いっぽう、「写真撮影」「楽器の演奏」など、「体験型・行動型」の文化活動に取り組む方も多い。民謡などの「邦楽」も27万人と、根強い人気を誇っている。

このように、エンタテインメント、アート、音楽は、楽しむ形はそれぞれながら、東京で暮らす人の大きな潤いになっている。

出典：「総務省 政府統計の総合窓口」  
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/>  
平成18年社会生活基本調査  
生活行動編(地域)表番号22-1  
「男女、趣味・娯楽の種類別行動者数」より

# EVENT A La Carte

イベントアラカルト

東京文化発信プロジェクトの事業で、今後注目したいイベント、開催された公演のレポートなどを、本コーナーでご紹介いたします。

## 体験 レポート

東京アートポイント計画 LIFE ON BOARD TOKYO 09-10 東京低地クルーズ

### 小型船で運河を巡り、川から街の魅力を再発見！

海拔ゼロメートル地帯が広がる江東区。このエリアに広がる運河、掘割をクルーズし、普段は目にするのでできない街の様相を、川からの視点でリサーチする「LIFE ON BOARD TOKYO 09-10 東京低地クルーズ」が、11月28日に開催されました。

当日は、江東区・越中島棧橋と晴海朝潮棧橋を、小型の動力船と手漕ぎのボートで巡るコースが用意されました。手漕ぎボートは、総員20名がパドルを漕いで人力で運河をクルーズ。参加者からは「思った以上に船は安定

性あって安心して漕げた。細い運河から見上げる街並は新鮮です」との感想が。

動力船では、パナマ運河と同じシステムで作られた水門による運河移動など、水運都市・東京ならではの河川文化を体験。川岸に点在する町工場や古い街並を船上から発見し、改めてこの街の魅力を知ったという参加者も。クルーズの最後には建設中の東京スカイツリー近くを通過し、都市の新しい息吹を運河から体感して帰港する、充実したイベントとなりました。



左/水門で水位調節による船の移動を体験。左中/スタッフの解説に聞き入る参加者。左下/動力船が通れない狭い運河は手漕ぎボートで。下/運河から眺めた、建設中の東京スカイツリー。



## 注目の イベント

ラグジュアリー:ファッションの欲望 特別展示  
「妹島和世による空間デザイン/コム・デ・ギャルソン」

### 新しい空間演出と アバンギャルドな服の融合

現在、東京都現代美術館では、日本を代表する服飾デザイナー・川久保 玲氏が手がける「コム・デ・ギャルソン」の服を紹介する特別展示を開催しています。この空間デザインを担当したのは、来年に行われる『ベネチア・ビエンナーレ国際建築展』の総合ディレクターに選出された建築家・妹島和世氏。

展示会場には、京都服飾文化研究財団のコレクションの中から、約30点の服が登場。天井からワイヤーで吊るされ、大きく波打つ透明なアクリルのパーテーションで区切られたアバンギャルドな服の数々は、不思議な浮遊感と遠近感で、見る人に様々なインスピレーションを与えています。

開催日/～2010年1月17日(日)

場所/東京都現代美術館 企画展示室アトリウム

開館時間/10:00～18:00

休館日/月曜日

(ただし1月11日は開館、

翌日休館)、

12月28日～1月1日

観覧料/無料

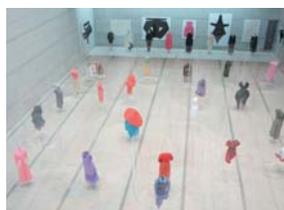


photo by Kenshu Shintsubo

フェスティバル/トーキョー09秋  
「デッド・キャット・バウンス」

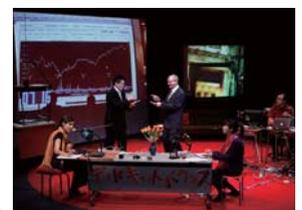
公演  
レビュー

### 演劇と株取引が合体! 投資のスリルを体感するパフォーマンス

「デッド・キャット・バウンス」は、劇場と金融市場をインターネットでダイレクトに接続し、株価の動きを見ながら、実際に株を売買していくという、演劇と株取引が合体したパフォーマンス。11月23(月)から27日(金)まで、にしすがも創造舎で開催されました。

観客の支払ったチケット代相当金額を原資に、E-証券取引口座を通じて、ロンドン証券取引所に投資されるというもので、今回の日本公演では、日本人のジャーナリスト、トレーダー、経済学者のインタビュー映像も交えながら展開されました。有望そうな銘柄ながら詳細が分からない会社については、上演中に直接ロンドンの会社窓口にお問い合わせの電話をする場面も。

25日(水)には、終演後にポスト・パフォーマンストークもあり、「最初買った銘柄は、ハラハラさせるために下がりそうな銘柄を最初に乗っているの?」「今までの各国での公演でのエピソードは?」など入場者からの質問も飛び出し、盛況となりました。



©Jun Ishikawa

## 12月～2010年3月 主な事業スケジュール

	東京ならではの芸術文化の創造・発信	芸術文化を通じた子供たちの育成
12月・1月	<p>ラグジュアリー：ファッションの欲望 特別展示 妹島和世による空間デザイン/コム・デ・ギャルソン ～2010年1月17日(日) 東京都現代美術館</p> <p>井上雄彦 エントランス・スペース・プロジェクト ～2010年3月28日(日) 東京都現代美術館 エントランス</p>	
2月	<p>第2回 恵比寿映像祭 19日(金)～28日(日) 東京都写真美術館、 恵比寿ガーデンプレイス センター広場 ほか</p>	<p>青少年のための舞台芸術体験プログラム 16日(火) 東京二期会オペラ「オテロ」ゲネプロ公開 東京文化会館</p> <p>青少年のための舞台芸術体験プログラム 25日(木) 東京バレエ団「シルヴィア」ゲネプロ公開 東京文化会館</p>
3月	<p>芸術監督セレクション「農業少女」 1日(月)～31日(水) 東京芸術劇場</p> <p>六本木アートナイト 2010 27日(土)～28日(日) 六本木ヒルズ、 東京ミッドタウン、国立新美術館、サントリー美術館、 森美術館、21_21 DESIGN SIGHT、六本木商店街、 その他六本木地区の協力施設や公共スペース</p>	<p>青少年のための舞台芸術体験プログラム 2日(火) ニーナ・アナニアシヴィリ&amp;グルジア 国立バレエ「ジゼル」ゲネプロ公開/東京文化会館</p> <p>パフォーマンスキッズ・トーキョー in 東京芸術劇場 7日(日) 発表公演/東京芸術劇場小ホール2</p> <p>青少年のための舞台芸術体験プログラム 17日(水) パリ・オペラ座バレエ団「ジゼル」 ゲネプロ公開/東京文化会館</p> <p>キッズ伝統芸能体験 22日(月・祝) 発表会〔能楽〕/宝生能楽堂</p> <p>キッズ伝統芸能体験 29日(月) 発表会〔日本舞踊/箏曲/長唄三味線〕 国立劇場大劇場</p> <p>パフォーマンスキッズ・トーキョー in 保谷こもれびホール 30日(火) 発表公演/保谷こもれびホール 小ホール</p>

## 東京アートポイント計画 <http://www.bh-project.jp/artpoint>

### 東京アートポイント計画とは

東京の様々な人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京の多様な魅力を地域・市民の参画により創造・発信することを目指しています。まちなかで市民とアーティストが協働するアートプログラム、川や防災などをテーマとしたプログラム、アートで人・まち・活動を結ぶための人材育成プログラムなどを展開しています。

### アートプログラム

#### LIFE ON BOARD TOKYO 09-10

2月7日(日) シンポジウム「水辺利用と東京のポテンシャル」(仮)  
会場未定

3月13日(土) 浜離宮・芝浦・古川クルーズ  
芝浦→浜離宮→芝浦運河→芝浦アイランド→芝浦

3月22日(月・祝) 水上マーケット「グラっとバザール」  
東京海洋大学港南キャンパス棧橋など

#### イザ!カエルキャラバン! in 東京

2月19日(金) シンポジウム  
「防災とアートーイザ!カエルキャラバン in 東京」(仮称)/会場未定

#### Insideout / Tokyo

3月20日(土)～3月22日(月・祝)  
東京と地域を結ぶ活動を行っている団体のリーダー等による、「東京ー地方」  
関係の再構築をめざした公開プレゼンテーション&ディスカッション  
アーツ千代田3331

### 人材育成プログラム

#### レクチャー・シリーズ「Tokyo Art School」/ヒルサイドプラザ

1月16日(土) 「『壁』の無い東京へ」  
塚本 由晴 (アトリエ・ワン/建築家) ×  
安富 歩 (東京大学東洋文化研究所教授/社会生態学者)

2月20日(土) 「共生のための環境へ」  
藤 浩志 (美術家) × 飯島 博 (NPO法人アサザ基金 代表理事)

3月13日(土) 「テクノロジー・情報・身体」  
藤高 晃右 (Tokyo Art Beat・NY Art Beat共同設立者) ×  
ドミニク・チェン (NPO法人クリエイティブ・commons・ジャパン理事  
株式会社ディヴィデュアル共同設立取締役)

#### インターン・プログラム「シッカイ屋」

3月27日(土) シッカイ屋 平成21年度成果報告会 (仮称)  
アーツ千代田3331

## ■ 東京文化発信プロジェクト 概要 ■

東京文化発信プロジェクトは、東京ならではの芸術文化の創造・発信と、芸術文化を通じた子供たちの育成を目的として、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体、アートNPO等と協力して実施しているプロジェクトです。

演劇、音楽、伝統芸能、美術など様々な分野のイベントやフェスティバル、まちなかで市民とアーティストが協働するアートプログラム、まちとアートをつなぐ人材の育成事業、子供向けの体験型プログラムなどの事業を展開しています。

東京は、世界に通用する日本の伝統文化である浮世絵や歌舞伎などをはぐくみ、今も身近に実体験できる都市です。また近年では、様々なアーティストたちによる文化芸術の創造拠点になっているほか、アニメーションに代表されるポップカルチャーを次々と世界へ送り出しています。

アーティストと市民による創造的な活動とその成果の発信を通じて、東京が「文化芸術創造都市」であることを、国内だけでなく世界に強くアピールしていきます。

実施運営の統括は、財団法人東京都歴史文化財団の東京文化発信プロジェクト室が行っています。

東京文化発信プロジェクトは、東京都の「10年後の東京～東京が変わる～」(平成18年度策定)への実行プログラムとして改定された「『10年後の東京』への実行プログラム2009」(平成20年度12月策定)における、目標6「都市の魅力や産業力で東京のプレゼンスを確立する」、施策32「東京から世界へ 新たな文化の創造・発信」の指定で、重点的に実施されています。

### 報道関係の方々へ

「東京文化発信プロジェクト広報事務局」を開設しました。  
さまざまな切り口のプレスニュースレターを毎月発行し、  
プロジェクトや各事業について情報提供をさせていただきます。  
お気軽にお問い合わせいただきたく、よろしく願いいたします。

#### <報道関係者からの問い合わせ先>

東京文化発信プロジェクト広報事務局 富樫／大原  
電話：03-3818-2465 FAX：03-5689-0455  
E-mail:tokyobunka@prinfo.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-24-8-11F

※プレスニュースレターは、下記からダウンロードすることができます。  
<http://www.bh-project.jp/festival/jpn/pressnews/>

次号 (vol.6) の予告  
特集テーマ：「子供(仮)」  
2010年1月下旬発行予定の次号  
では、子供との関わりを切り口に  
当プロジェクトを紹介します。